

2023年5月17日

一般社団法人日本損害保険協会 経営企画部国際業務室

IAIS 市中協議文書「気候リスク監督ガイダンス(パート1)」に意見提出

日本損害保険協会(会長: 白川 儀一)は、保険監督者国際機構(IAIS)(※1)が3月16日から5月16日にかけて市中協議に付した「気候リスク監督ガイダンス(パート1)」に対する意見を提出しました。 当協会が提出した意見は、次頁以降をご参照ください。

市中協議文書の概要

- 本市中協議は、昨年 IAIS が実施した、既存の監督文書における気候リスクの捕捉範囲を評価し、基準の 策定、および/あるいは監督実務に関する追加的ガイダンスの提供に向けた今後の作業の可能性を特定 するための、ギャップ分析の結果を踏まえたものである。IAIS は 2023 年から 2024 年にかけて、様々な 保険基本原則(ICP)(注 2)に関連するガイダンスの限定的な変更について、計3回にわたり市中協議を行 うとともに、補助的な監督文書を作成することを予定している。
- · 今回の市中協議文書には、以下に関する質問が含まれている。
 - > 国際的な保険監督枠組みに気候リスクを位置付けるための、ICP イントロダクションの変更案
 - ICP7(コーポレートガバナンス)、ICP8(リスク管理および内部統制)に関連する既存の補助的な文書の変更の要否
 - > 監督ガイダンスに関係する、気候リスク関連作業の全般

市中協議文書の原文は、以下でご覧いただけます。

https://www.iaisweb.org/2023/03/public-consultation-on-climate-risk-supervisory-guidance-part-one/

当協会は、IAIS における国際保険監督基準策定の議論に積極的に参加しており、今後も市中協議等に際して本邦業界の意見を表明していきます。

(※1)保険監督者国際機構(IAIS)

1994年に設立され、世界200カ国・地域以上の保険監督当局(メンバー)で構成される組織。
主な活動は以下のとおり。
1)保険監督当局間の協力の促進
2)保険監督・規制に関する国際基準の策定および導入促進
3)メンバー国への教育訓練の実施
4)金融セクターの他業種の規制者等との協力
※日本からは金融庁がメンバーとして参加しており、当協会もステークホルダーとして積極的に関与する 方針を掲げている。

(※2)保険基本原則(ICP)

保険セクターの健全性を促進し、適切に保険契約者を保護するために必要な保険監督にあたっての基本原則などを定めた監督文書で、あらゆる保険グループおよび保険会社を対象としている。



保険監督者国際機構(IAIS)「気候リスク監督ガイダンス(パート1)」に対する損保協会意見

質問	和文	英文
	2021 年版アプリケーション・ペーパーのパラグラフ 42 に ALM が気候	Paragraph 42 of the 2021 Application Paper states that ALM may be affected
	変動に影響を受ける、との記載があるが、削除すべきと考えることを再	by climate-related risks, but we would like to reiterate that this description
	度指摘する。気候変動が金融資産に影響を及ぼす可能性、ひいては保険	should be deleted. While we do not dispute that climate change may affect
Q3	会社にとっての潜在的な運用リスクにつながる可能性について異論ない	financial assets and consequently lead to potential asset management risks
Q3	が、保険会社における ALM は本来市場金利リスク管理の問題であり、	for insurers, ALM of insurers is essentially an issue of market interest rate risk
	気候変動と ALM を直接関連付けることは不適切。また、気候変動に伴	management, and it is inappropriate to directly link climate change and ALM.
	い信用リスク資産の信用スプレッド拡大やデフォルトが増加していると	In addition, there is no indication that credit spreads on credit risk assets have
	の認識はない。	widened or that defaults have increased as a result of climate change.
	・本ガイダンスのパラグラフ1(5行目)およびパラグラフ4(5行	- In Paragraph 1 (Line 5) and Paragraph 4 (Line 5) of this guidance, mitigation
	目)に mitigation(緩和)は登場するものの、adaptation(適応)への	is mentioned, but there is no reference to adaptation. Consideration should be
	言及がなされていない。損害保険事業により直接的に影響を及ぼすのは	given to adding/referencing adaptation, as it is physical risk closely related to
	後者と関連の深い物理的リスクと思われることから、adaptation の追	adaptation that is likely to have a more direct impact on general insurance
Q4	加・言及も検討いただきたい。	businesses.
	・気候変動リスクへの対応に関する検討には、国・地域ごとに異なる事	- In considering responses to climate change risks, circumstances and
	情や課題が存在する。そのため、今後の市中協議で検討する課題やテー	challenges differ among countries and regions. This should be fully taken into
	マにおいても、この点を十分に考慮いただきたい。	account in examining issues or themes to explore in the forthcoming
		consultations.
	スムーズな脱炭素社会への移行において、移行計画は重要な要素である	While we recognize that transition planning is an important element in
	と認識している。	ensuring a smooth transition to a decarbonized society, it may not be
	一方で、以下の理由からあえて IAIS が移行計画の作業をする必要はな	necessary for the IAIS to work on transition planning for the following reasons:
Q5	いのではないか。	- Given the roles of insurers in maintaining and developing fair, safe and stable
	・保険会社が、保険契約者の利益と保護に資する、公正で安全かつ安定	insurance markets that benefit and protect policyholders and in contributing to
	した保険市場を維持・発展させ、世界の金融安定に貢献する役割を担っ	global financial stability, transition planning is a topic that should be treated
	ていることを踏まえると、移行計画は慎重に扱うべきテーマである。	carefully.



保険監督者国際機構(IAIS)「気候リスク監督ガイダンス(パート1)」に対する損保協会意見

	小灰血自治白	
	・移行計画策定のガイドラインについては、TCFD や GFANZ などすで	- A certain level of guidelines for transition planning have already been
	に民間主導の取組み・イニシアチブにおいて一定の目線が示されてお	developed by private sector-led initiatives and frameworks such as TCFD and
	り、保険会社もその対応を進めている。	GFANZ, and insurers are in the process of responding to them.
	懸念する背景は以下の観点であり、十分な考慮を踏まえた検討を行うべ	As the background to our concerns, we want to point out the following, which
	きである。	the IAIS should fully take into account:
	・移行計画の策定にあたっては、国・地域ごとの脱炭素に向けた道筋	- The development of transition plans needs to reflect country- and region-
	や、各保険会社の事業特性の違いなどを反映する必要がある。IAIS が移	specific pathways to decarbonization as well as differences in the business
	行計画に関する検討を行う際、仮に例示として特定地域の考えやアプロ	characteristics of individual insurers. We are concerned that, if the IAIS were
	ーチを記載した場合、それがベストプラクティスとされ、他のアプロー	to work on transition planning and describe a particular region's thinking or
	チが許容されづらくなることを懸念する。	approach as an example, it would be considered best practice, which would
	・投融資の文脈においてトランジションファイナンスの定義が定まって	make it difficult for other approaches to be allowed.
	いないのと同様、保険分野の移行計画の定義の理解には国・地域や保険	- We recognize that there are differences among countries/regions as well as
	会社によって差異があるものと認識している。このような状況におい	insurers in understanding the definition of transition planning in the insurance
	て、保険引受を拙速に制限することのみが強調されるような移行計画が	sector, just as there is no established definition of transition finance in the
	推奨されるガイダンス策定がなされることを懸念する。	context of investment and financing. In view of this, we are concerned about
	・上述のとおり、民間主導の取組みやイニシアチブでの作業が進んでい	the possibility of the development of guidance that recommends transition
	るため、IAIS による検討・取組は、これら民間サイドでの取組みを支援	plans only emphasising poor underwriting restrictions without sufficient
	(contribute、promote、等)するものであるべき。また、同検討・取組	consideration.
	みは民間サイドでの取組みと整合し、ハイレベルでプリンシプルベース	- As noted above, because work is already progressing through private-sector-
	の内容とすることが重要である。	led initiatives and frameworks, the IAIS's activities should be aimed at
		supporting (contributing to, promoting, etc.) these initiatives. It is also
		important that the IAIS's considerations and measures are aligned with private
		sector initiatives, and that they are high-level and principles-based.
Q6	気候関連の取組みとして、プロテクションギャップ・タスクフォースが	As part of climate-related efforts, we are aware that the Protection Gap Task
	自然災害によるプロテクションギャップの縮小に向けて議論し、レポー	Force is advancing discussions on reducing NatCat protection gaps to
	トを作成していると認識している。自然災害によるプロテクションギャ	produce a report. In order to reduce the gaps, it would be useful to discuss
	ップ縮小に向けては、保険に対する意識やアベイラビリティ、インシュ	and include in the report not only efforts to improve insurance coverage, such



保険監督者国際機構(IAIS)「気候リスク監督ガイダンス(パート1)」に対する損保協会意見

アビリティ等の保険カバー率を向上させる取組みだけでなく、防災・減	as enhancement of insurance awareness, availability and insurability, but also
災といった損害そのものを減らすような取組みも議論し、レポートにも	efforts to reduce losses, such as disaster prevention and mitigation.
記載することは有用だと考える。	